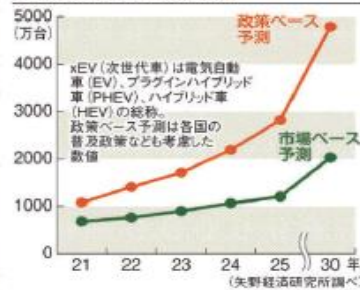


# 中堅部品、EV狙い新事業

## アーレスティ e アクスル参入

### サンコール バスバー2倍増 三桜工業 冷却配管を強化

世界のxEV生産台数



世界で需要拡大が期待される電気自動車(EV)など電動車に、中堅部品メーカーが相次ぎ新事業を拡大する。アーレスティは2024年にもEV向け駆動モジュール「eアクスル」関連事業に参入。サン

コールは電動車の配電に使うバスバーの生産能力を倍増する。三桜工業は電動車の電力を適切に制御するパワーコントロールユニット(PCU)の冷却配管システムを開発する。カーボンニュートラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)の潮流による技術変化を商機と捉え、次世代車向け成長を伺う。

20年度比19%増の30%に高める計画だ。一方、サンコールは1億12億円を投じて広島工場(愛知県豊田)に電動車の配電に使うバスバーの中・長尺タイプの新ラインを増設し、22年4月に量産を始める。このほど日系メーカーへの採用が決まった。

バスバーはバッテリーやインバーター、モーターなど間で電気を流す際、これらをつなぐ部品。同用途のワイヤハーネスに比べて首スベースで設置できる。同社は精密加工技術を駆使し、少量・多品種への対応が可能。ユニットの形状に合わせ、サイズ、形状、数値に柔軟に対応できるのが強み。

バスバーとシャント抵抗器を一体化し、リチウムイオンバッテリーの電流を検出する同社の「シャントonバスバー」も、北米自動車メーカーのEV向けに採用された。サンコールの全社売上高のうちEV関連製品の売上高比率を31年3月期に20年3月期比で約11%増の15%に引き上げる計画だ。

また、三桜工業は熱交換器や冷却配管の知見を生かし、PCUの冷却システムの設計、関連部品の製造に乗り出す。同社はスーパーコンピューター「富岳」の冷却回路に樹脂製配管が採用された技術力を訴求する。車、通信機器向けを合わせ、新規の冷却配管システム事業30年度に売上高500億円を目指す。

アーレスティはエンジン部品やトランスミッション部品などが主力。独自技術を生かし、eアクスルの筐体をアルミニウム合金で製造する。グローバル供給体制を強みに、完成車メーカーやティア1(一次部品メーカー)に売り込む。同社はeアクスル関連事業を軸に電動駆動部品の売上高を25年度に300億円を見込む。自動車部品事業の売上高に占める電動車向け比率を5年度に

eアクスルは駆動モーターやインバーター、ギアを同一の筐体に収納して一体化した製品。富士精機(東京都中央区)によると、eアクスル世界市場は35年に19年比54.3倍の1250万台に拡大する見通し。